記者発表（配付）資料

平成 21 年 5 月 26 日

所属部課	副館長	統括学芸員	担　　当	連絡先
歴史まちづくり部 萩博物館	樋口尚樹	清水満幸	堀 成夫	0838-25-6447

件 名	深海イカ「ゴマフホウズキイカ」などを山口県で初めて発見

めったに見られない深海イカ「ゴマフホウズキイカ」などが山口県ではじめて長門市青海島でダイバーによって発見され、生態写真・映像が萩博物館に寄贈されました。

■ 発見の経緯

4 月 18 日、長門市青海島でダイビングをしていた「シーアゲイン」（山口市のダイビングショップ）のスタッフから、「一昨年見つかった珍種サメハダホウズキイカに似たイカを発見した」と萩博物館に連絡がありました。その後、画像や映像の寄贈を受け、堀研究員が調査したところ、「サメハダホウズキイカ」よりさらに珍しい「ゴマフホウズキイカ」と判明しました。

発見日： 2009 年 5 月 18 日　　**発見地**： 長門市青海島・船越（外海側）水深約 3m
発見者： 笹川 勉氏（「シーアゲイン」のスタッフ）
撮影者： 秋山幸宏氏（広島市：「シーアゲイン」の会員）
サイズ： 外套長（胴体の長さ）6cm の成体。（※捕獲はしていません）

■ ゴマフホウズキイカとは？

ふつうのイカと違い、胴体（「外套」）が「ほおずき」のようにパンパンに膨らみ、表面に胡麻をふりかけたような模様があること、漏斗が異様に大きいことが特徴。胴体には、深海で浮力調節するための塩化アンモニウムを貯蔵。眼の縁に「発光器」があり、深海で光を放ちます。全世界の暖かい海の深海にすむため、一般人が見かける機会はほとんどありません。

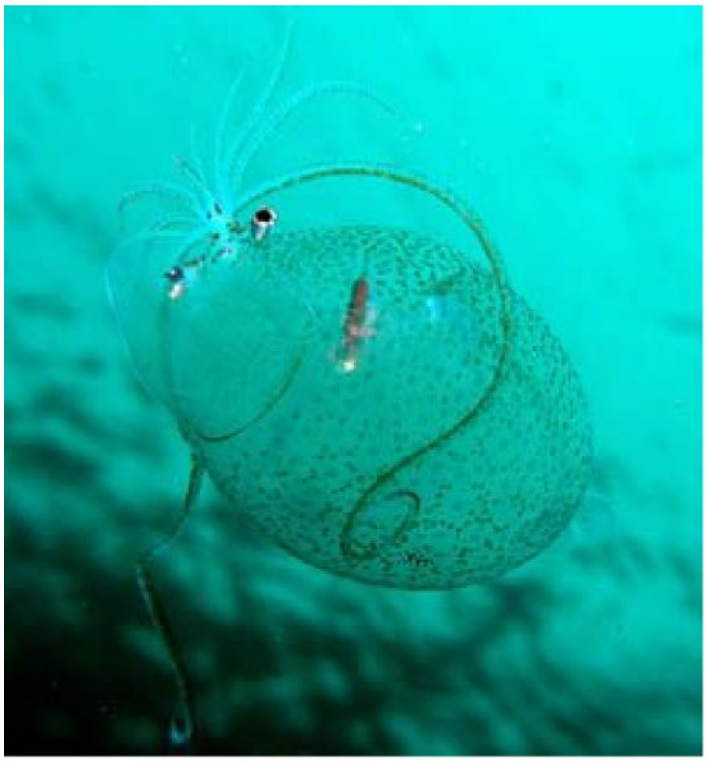
■ ゴマフホウズキイカ発見の意義

山口県では一昨年（2007 年）に近縁のサメハダホウズキイカが約 60～70 年ぶりに数個体見つかって話題になりましたが、今回のゴマフホウズキイカは県内で全く報告されたことのなかった珍種です。日本では太平洋側などでプランクトンなどに混ざって幼体が捕獲されることがありますが、成体が日本海の浅場に現われ、生態画像・映像として記録されるのはきわめて珍しいことです。

山口県の日本海側では、1990 年代後半から初夏にサケガシラやフリソデウオといった深海生物がしばしば出現していますが、今年はそれに加え、今回のゴマフホウズキイカのほかヒョウタンハダカカメガイ（別添写真③）やオオタルマワシ（別添写真④）といった珍種も山口県で初めて発見されています。水深が浅いこの近海なぜ深海の珍種がよく現れるのかについては未だ謎に包まれており、数年前より萩博物館と山口県水産研究センター・海響館の共同で情報収集と研究を続けています。

■ ゴマフホウズキイカの画像・映像について

デジタル画像 5 枚と、DVD 映像（2 分程度：画質にやや難あり）がありますので、報道関係者に限り、ご連絡いただければ送信・提供いたします。一般向けには、今夏に当館で予定している親子連れ向けの特別展「マンタの海流大冒険～まぼろしの海神王国をめざして～」（7/4～8/31）の会場内の小型画面で公開します。



写真①　ゴマフホウズキイカ－1
外套の長さ:6cm
長門市青海島
2009 年 4 月 18 日
秋山幸宏氏撮影

写真②　ゴマフホウズキイカ－2
外套の長さ:6cm
長門市青海島
2009 年 4 月 18 日
秋山幸宏氏撮影

写真③　ヒョウタンハダカカメガイ
長さ 1.5cm
長門市青海島
2009 年 5 月 2 日
足立淳氏撮影

写真④　オオタルマワシ
本体の長さ 2.5cm
長門市青海島
2009 年 5 月 15 日
田中百合氏撮影

備考：

ヒョウタンハダカカメガイ：「流氷の天使」とよばれるクリオネ」に近い、浮遊する巻貝のなかま。

オオタルマワシ：浮遊するホヤの中身を食べて体ごと入りこみ、「樽を回す」ように操りながら浮遊してくらす甲殻類。いずれもゴマフホウズキイカほどではありませんが、生態がおもしろいため見つかると話題になる珍種で、山口県では今回初めて発見されました。